

人と人がつながるお手伝いを

## 大橋マキ

(アロマセラピスト)

テレビ局のアナウンサーを退職後、英国で植物療法を学び、帰国後は日本の医療現場でアロマセラピストとして活躍。現在は被災地の支援活動や、地元葉山の町おこしにも力を注がれている大橋さんにお話をうかがいました。

駆けつけられなかった被災地を  
香り付きの写真集で支援

昨年3月、東日本大震災で荒れ果てた東北の景色を見て何かできないかと考えた末、香り付き写真集の製作を思いついたという大橋さん。

「夫の実家が仙台ということもあり、東北は私にとって故郷。知人も多く、現地に赴いて何か助けになりたいと思いました。ところがその時は、ふたり

は話します。現在は、神奈川県葉山町の山の中腹に居を構え、4歳の女の子と生後2カ月の男の子の育児に奮闘中です。

「子どもって一人ではとても育てられませんよね。だから自然にママ同士で力を合わせたり、地域の人に助けていただいたり。子育てをきっかけに、地域のつながりの大切さを感じました」「おたがいさま」という言葉が大好きと語る大橋さん。現在、地域や社会の活動にも積極的に参加されています。「その一つに『海のようにえん』があります。海を舞台に貝殻など海の素材

目の赤ちゃんを授かったばかりで、断念せざるをえませんでした。遠く離れた場所でも被災地の人に寄り添ってほしいと、夫や身近な人たちと知恵を出し合って思いついたのがこれでした」  
以前から東北の森には何か神聖なものを感じていたという大橋さん。針葉樹のアロマをブレンドした香りを作って写真集に添えたそうです。  
「震災後も、神様は地域や人に宿っているよというメッセージを、香りに託しました」

アルバムを模した布張りのケースには、東北6県で撮影された50枚の写真、アロマのミニボトル、香りを染み込ませて楽しむためのコースター、そして小さな松ぼっくりが納められており、まるで思いつきの宝箱。写真は公募で集まった500枚の中から選び、色の褪せ具合まで忠実に再現したそうです。販売に伴う利益は全額、東日本大震災被災地復興支援活動を行う団体に寄付されています。

を使った造形を楽しむなど、自然の中で子どもたちの創造力を伸ばすため、地域の親子を対象に仲間や家族ぐるみで運営しています。親があれこれと手を焼くより、自然に任せる方が、はるかに子どもはたくさん学ぶことができますね」

他にも途上国の出産時における母子の死亡率を抑えるホワイトリボン運動に参加したり、クラシックのコンサートや能の舞台でアロマを添える企画なども手がけているという大橋さん。最近ではアロマを使った町おこしにも力を注いでいます。

「ちょうど今、この葉山でとれるホーリーバジルというハーブから精油を抽出し、その香りで町の活性化をしようとして社会福祉協議会と協働でお話しを進めているところです。これからもアロマを通じて自分ができることを考え、様々な地域で人と人がつながるきっかけ作りのお手伝いができればと思います」

## PROFILE

## 大橋マキ

(IFA認定アロマセラピスト)

2001年、フジテレビアナウンサーを退職後、英国に留学。植物療法を学ぶ。帰国後7年間、アロマセラピストとして病院で活動後、現在はオリジナルブレンドアロマ「aromamora」をプロデュース。



## 「Tohoku／東北」

東北の思い出の写真を集めた写真集。

## 「日々香日」

発行／サンマーク出版

大橋マキさんのエッセイ。人生の岐路にたった時に、どんなことを考えてきたかを、彼女の言葉で語った一冊。



PRESENT サイン入り書籍  
「日々香日」を  
3名様にプレゼント